# 令和４年度全国学力・学習状況調査の結果について

光市教育委員会学校教育課

# 調査の概要

**1 目　的**　義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

**2 調査期日**　令和４年４月１９日（火）

**3 調査対象**　光市立小学校第６学年児童（11 校）　光市立中学校第３学年生徒（５校）

**4 調査内容**　⑴ 教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）　①と②を一体的に出題。

①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい 知識・技能など

②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などに関わる内容

⑵学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査を実施。

・達成感、規範意識、自己有用感等

・ICT を活用した学習状況

・主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

・学習に対する興味・関心や授業の理解度等

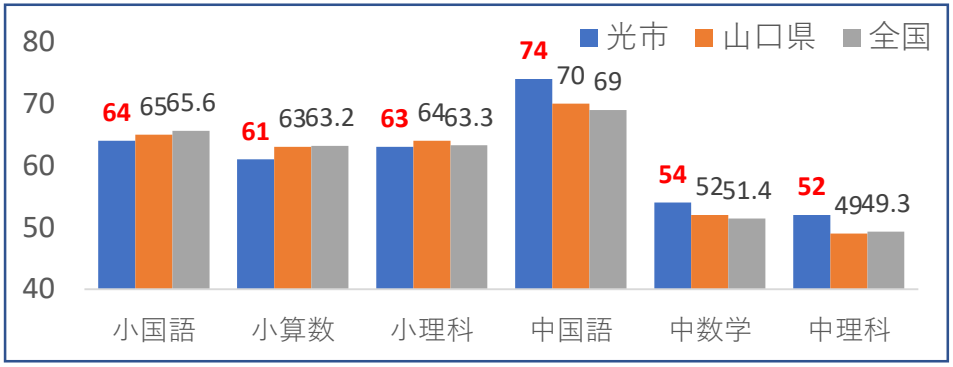
# 教科に関する調査結果

## 1 結果と分析

### （1） 本年度の結果（平均正答率（%））

※平成29 年度から、都道府県・市町村における平均正答率は整数値で提供

| | 小学校 | | | 中学校 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 国語 | 算数 | 理科 | 国語 | 数学 | 理科 |
| 光市 | 64 | 61 | 63 | 74 | 54 | 52 |
| 山口県（公立） | 65 | 63 | 64 | 70 | 52 | 49 |
| 全国（公立） | 65.6 | 63.2 | 63.3 | 69.0 | 51.4 | 49.3 |




### （2） 平均正答率の推移（令和元年～令和4年度の3ヶ年※を通して）

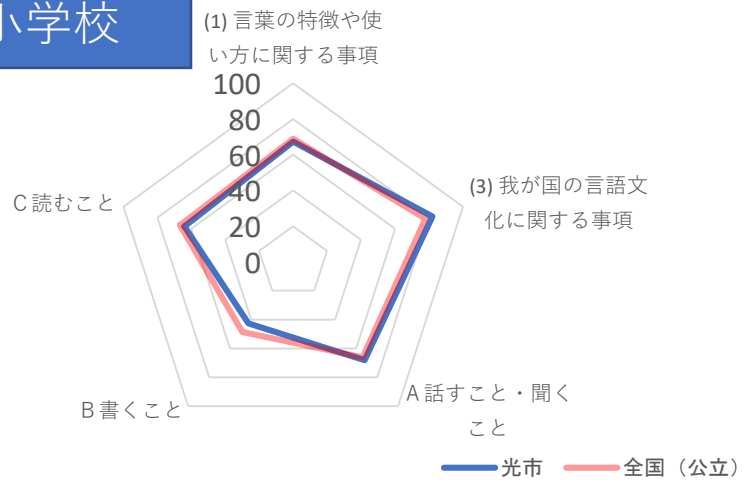
※全国平均を１００とし、数値の差を表したもの。

| | 小学校 | | | 中学校 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 国語 | 算数 | 理科 | 国語 | 数学 | 英語 | 理科 |
| R1 | 109.7 | 100.6 | - | 100.3 | 103.7 | 98.2 | - |
| R2 | - | - | - | - | - | - | - |
| R3 | 100.4 | 101.1 | - | 102.1 | 108.3 | - | - |
| R4 | 97.6 | 96.5 | 99.5 | 107.2 | 105.1 | - | 105.5 |

※令和2年度は未実施

# 領域別結果（国語）

## 小学校

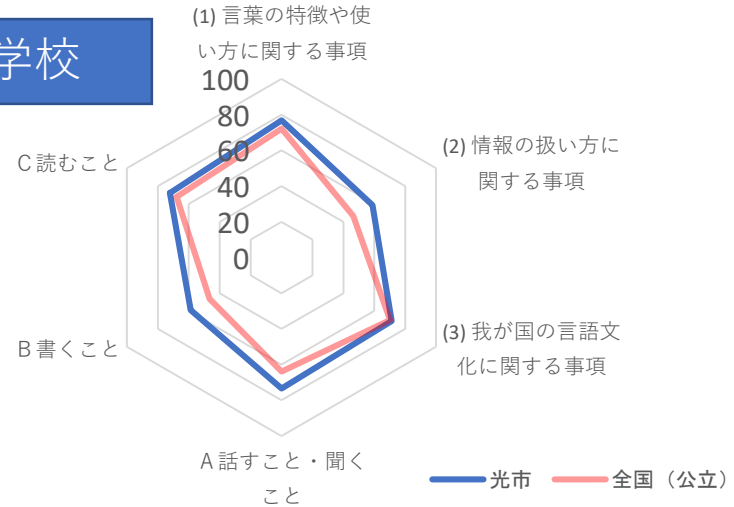



| | | 平均正答率（%） | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 光市 | 山口県（公立） | 全国（公立） | 差 |
| 全体 | | 64 | 65 | 65.6 | -1.6 |
| 知識および技能 | (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項 | 67.4 | 69.6 | 69 | -1.6 |
| | (2) 情報の扱い方に関する事項 | - | - | - | - |
| | (3) 我が国の言語文化に関する事項 | 82.0 | 81.8 | 77.9 | +4.1 |
| 思考力判断力表現力 | A話すこと・聞くこと | 68.1 | 66.0 | 66.2 | +1.9 |
| | B書くこと | 42.7 | 46.8 | 48.5 | -5.8 |
| | C読むこと | 64.0 | 64.4 | 66.6 | -2.6 |

○「我が国の言語文化に関する事項」「話すこと・聞くこと」の領域において全国平均を上回っている。

▲「書くこと」「読むこと」については全国平均を下回っている。文章全体の構成や書き表し方などに着目して，文や文章を整えたり、登場人物の相関関係についてとらえたりできるようにする指導が求められる。

## 中学校

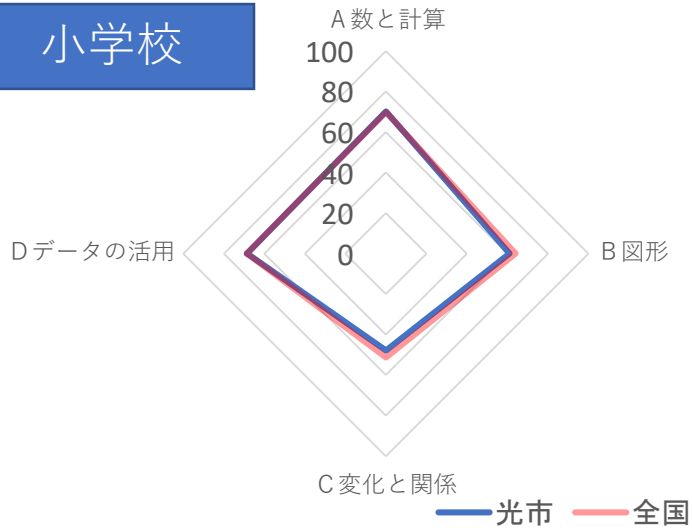



| | | 平均正答率（%） | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 光市 | 山口県（公立） | 全国（公立） | 差 |
| 全体 | | **74** | 70 | 69 | +5.0 |
| 知識および技能 | (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項 | **76.8** | 73.1 | 72.2 | +4.6 |
| | (2) 情報の扱い方に関する事項 | **58.8** | 51.1 | 46.5 | +12.3 |
| | (3) 我が国の言語文化に関する事項 | **71.2** | 70.7 | 70.2 | +1.0 |
| 思考力判断力表現力 | A話すこと・聞くこと | **73.3** | 66.1 | 63.9 | +9.4 |
| | B書くこと | **58.8** | 51.1 | 46.5 | +12.3 |
| | C読むこと | **72.2** | 68 | 67.9 | +4.3 |

○全ての領域において全国平均を上回っている。「**情報の扱い方に関する事項**」「話すこと・聞くこと」「書くこと」は大幅に上回っている。自分の考えを明確にして話したり書いたりする活動、その内容を見直したり推敲したりする言語活動を引き続き充実させていくことが必要である。

# 領域別結果（算数・数学）

## 小学校

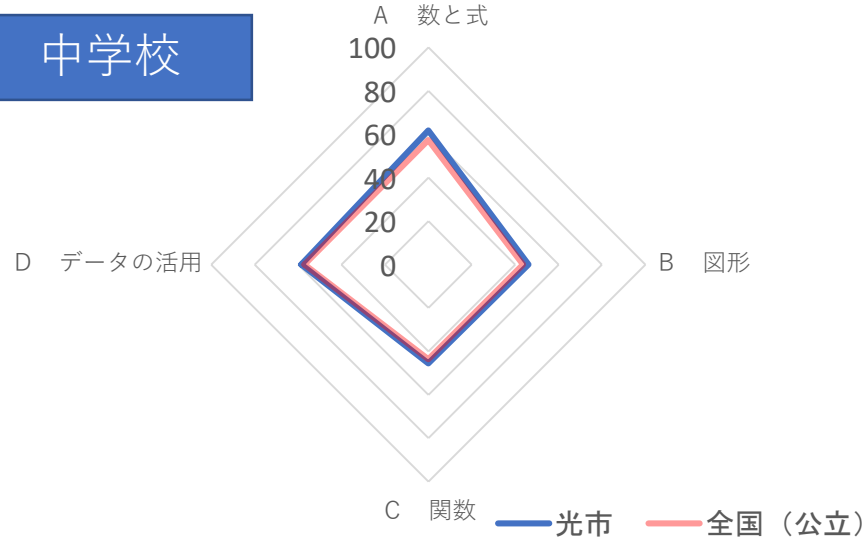



| | 平均正答率（%） | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 光市 | 山口県（公立） | 全国（公立） | 差 |
| 全体 | **61** | 63 | 63.2 | -2.2 |
| A　数と計算 | **70.1** | 70 | 69.8 | +0.3 |
| B　図形 | **61.1** | 63.2 | 64 | -2.9 |
| C　測定 | **-** | - | - | - |
| C　変化と関係 | **47.8** | 49.2 | 51.3 | -3.5 |
| D　データの活用 | **68.5** | 69.3 | 68.7 | -0.2 |

○「数と計算」領域では、式の意味を理解したり、示された場面に応じて立式したりすることができている。

▲「図形」「変化と関係」の領域については全国平均を下回っている。 図形を構成する要素やそれらの関係をとらえたり、百分率で表された割合と基準量や比較量の関係をとらえたりする学習を重点的に行っていく必要がある。

## 中学校

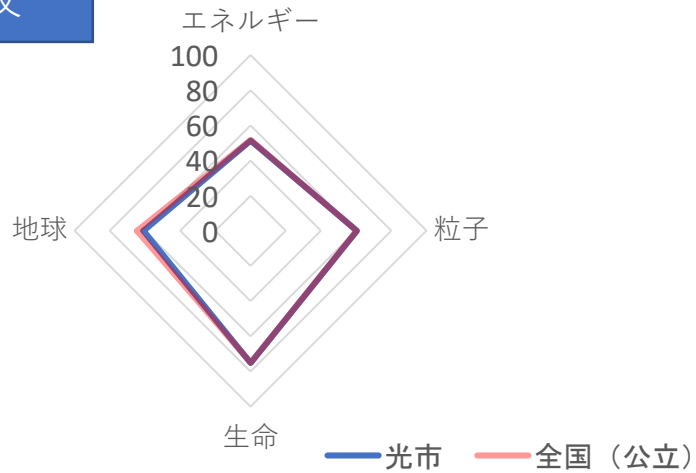



| | 平均正答率（%） | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 光市 | 山口県（公立） | 全国（公立） | 差 |
| 全体 | **54** | 52 | 51.4 | +2.6 |
| A　数と計算 | **61.8** | 58.5 | 57.4 | +4.4 |
| B　図形 | **46.1** | 42.6 | 43.6 | +2.5 |
| C　測定 | **45.6** | 43.1 | 43.6 | +2.0 |
| D　データの活用 | **58.5** | 57.3 | 57.1 | +1.4 |

○全ての領域において全国平均を上回っている。「数と計算」領域において、結論が成り立つための前提を考え、説明したり、目的に応じて式を変形し、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を数学的に説明することなどに成果がみられる。引き続き、課題解決の方法について数学的に表現する言語活動に取り組んでいく。

# 領域別結果（理科）

## 小学校

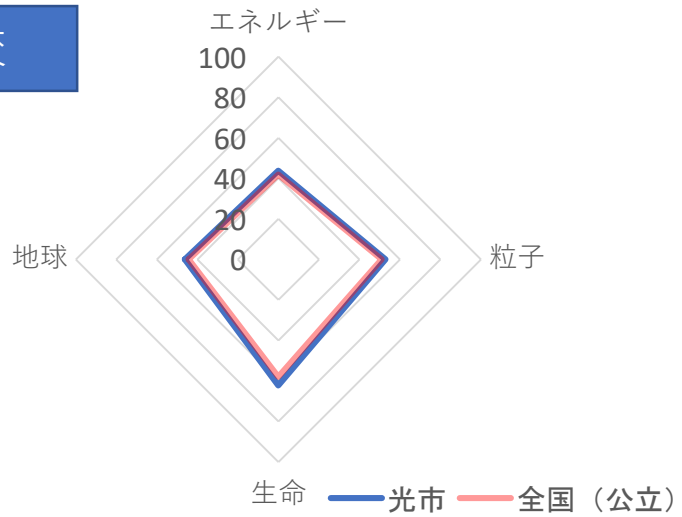



| | 平均正答率（%） | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 光市 | 山口県（公立） | 全国（公立） | 全国との差 |
| 全体 | **63** | 64 | 63.3 | -0.3 |
| エネルギー | **51.3** | 51.8 | 51.6 | -0.3 |
| 粒子 | **60.5** | 61.5 | 60.4 | ＋0.1 |
| 生命 | **75.1** | 76.1 | 75 | ＋0.1 |
| 地球 | **60.8** | 64.7 | 64.6 | -3.8 |

○「地球」を柱とする領域を除く３つの領域において全国平均とほぼ同程度の正答率である。

▲課題に対して他者の予想をもとに、起こりうる結果を見通すことに課題がみられた。児童が自分の予想や仮説を発想するだけではなく、自分の考えとは異なる他者の予想も捉え，予想が確かめられた場合に得られる実験の結果を見通して，解決の方法を発想し、観察や実験などを行えるよう、授業を構想する必要がある。

## 中学校




| | 平均正答率（%） | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 光市 | 山口県（公立） | 全国（公立） | |
| 全体 | **52** | 49 | 49.3 | ＋2.7 |
| エネルギー | **43.8** | 41.4 | 41.9 | ＋1.9 |
| 粒子 | **52.8** | 50.4 | 50.9 | ＋1.9 |
| 生命 | **62.3** | 58.6 | 57.9 | ＋4.4 |
| 地球 | **46.2** | 44.7 | 44.3 | ＋1.9 |

○全ての領域で全国平均を上回っている。記述式の問題の無回答率も全国と比べて低く、粘り強く課題に取り組む態度が身に付いているといえる。

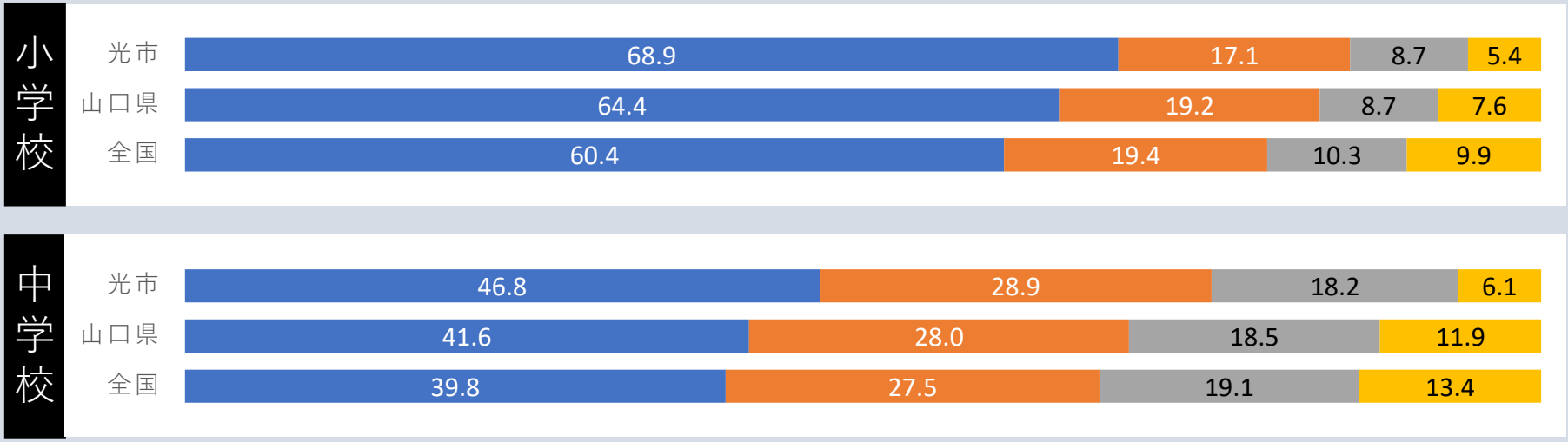
▲設問別にみると、身に付けた知識と日常生活における経験（科学的事象）を関連付けることにやや課題がある。身近な事象を科学的に探究する過程を通して，理科を学ぶことの意義や有用性を実感できる指導の工夫が求められる。

# 児童生徒質問紙の結果

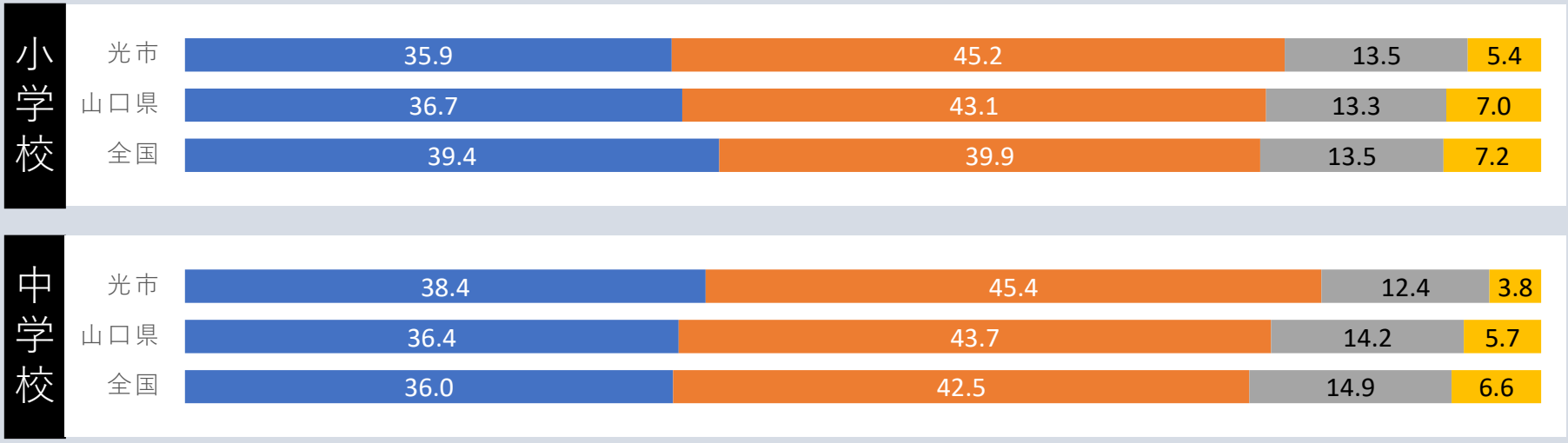
## ①子どもの意識に関する質問

■当てはまる ■どちらかというと当てはまる ■どちらかといえば当てはまらない ■当てはまらない

### 将来の夢や目標を持っていますか




### 自分にはよいところがあると思いますか

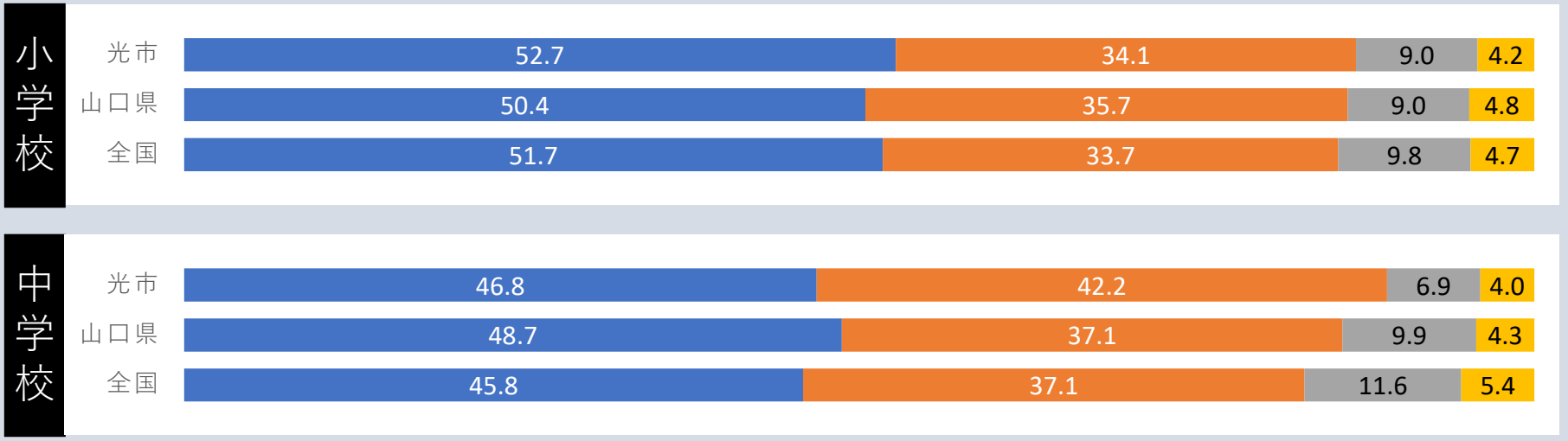


# 児童生徒質問紙の結果

## ①子どもの意識に関する質問

■当てはまる ■どちらかというと当てはまる ■どちらかといえば当てはまらない ■当てはまらない

### 学校に行くのは楽しいと思いますか




「自分には、よいところがあると思いますか」、「将来への夢や目標を持っていますか」、「学校にいくのは楽しいと思いますか」という質問に肯定的に回答している児童生徒の割合は、全国や県と比較しても高い。

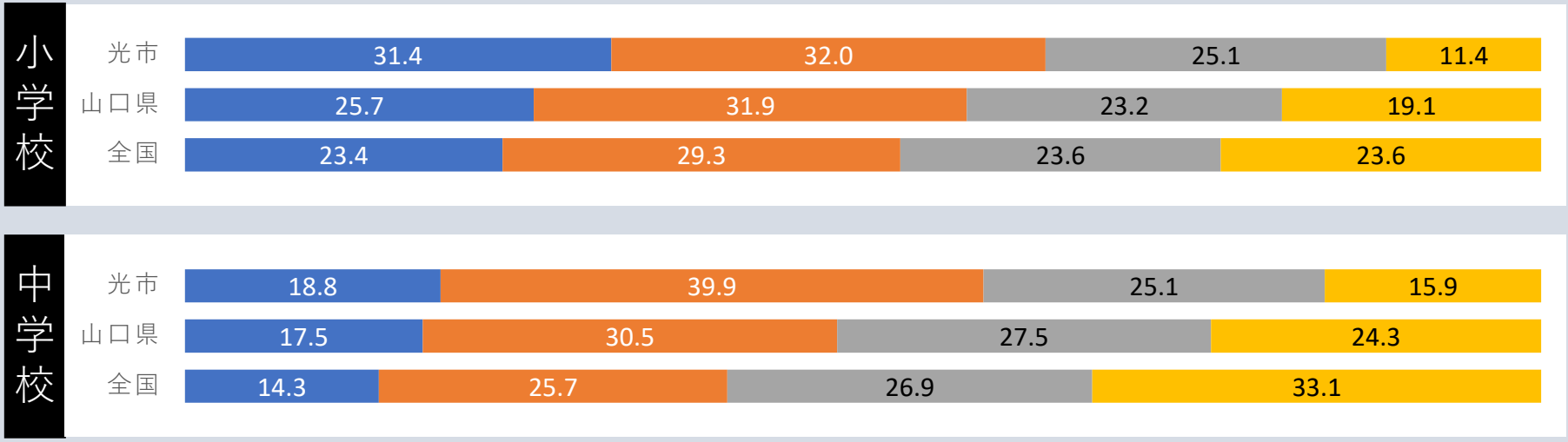
コロナ禍の中でも、各校で感染拡大に配慮しながらコミュニティ・スクールの機能を生かし、工夫した取組を各校で実施している。その過程で、様々な他者から児童生徒一人ひとりのよさが具体的に認められたり、適切に評価されたりする活動をとおして、自己肯定感・自己有用感等が高まっていると考えられる。引き続き、学校地域連携カリキュラムを機能的に生かしつつ、指導の一層の充実に努めていく。また、児童生徒が夢や目標をもったり、自己の成長を感じたりすることができるよう、教育活動全体の中で、道徳教育・キャリア教育等を進めていく。

# 児童生徒質問紙の結果

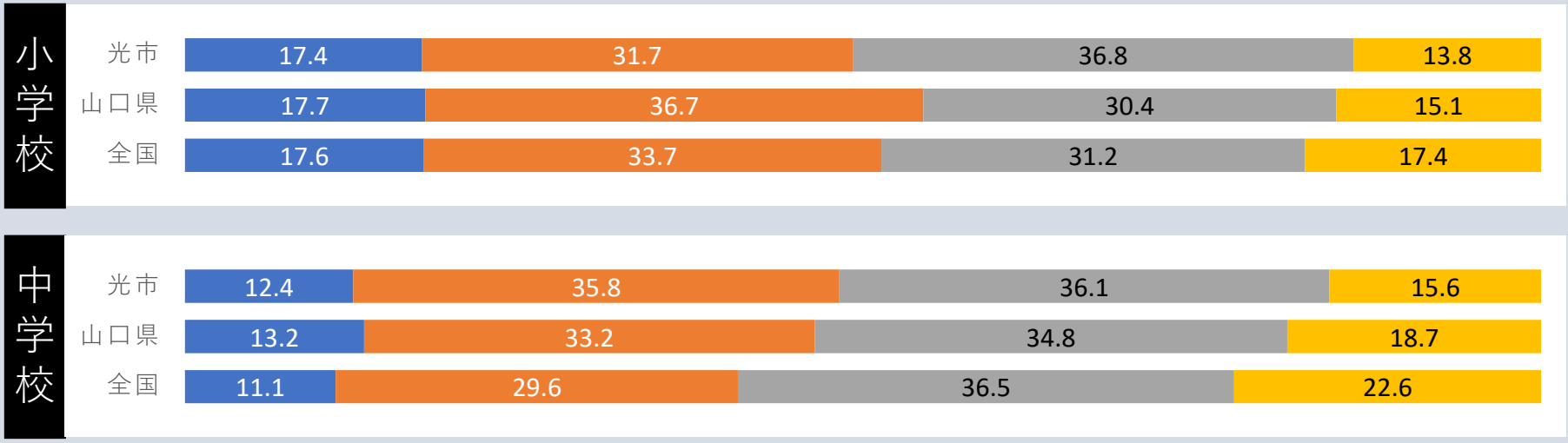
## ②地域との関わりに関する質問

■当てはまる ■どちらかというと当てはまる ■どちらかといえば当てはまらない ■当てはまらない

### 今住んでいる地域の行事に参加していますか




### 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか



# 児童生徒質問紙の結果

## ②地域との関わりに関する質問

■当てはまる ■どちらかというと当てはまる ■どちらかといえば当てはまらない ■当てはまらない

### 人の役に立つ人間になりたいと思いますか

「今住んでいる地域の行事に参加していますか」、「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」という質問に肯定的に回答している生徒の割合は、全国や県と比較しても高いものの、5割を切っている状況である。

「人の役に立つ人間になりたいか」いう質問に肯定的に回答しているという児童生徒の割合は全国平均とほぼ同等である。

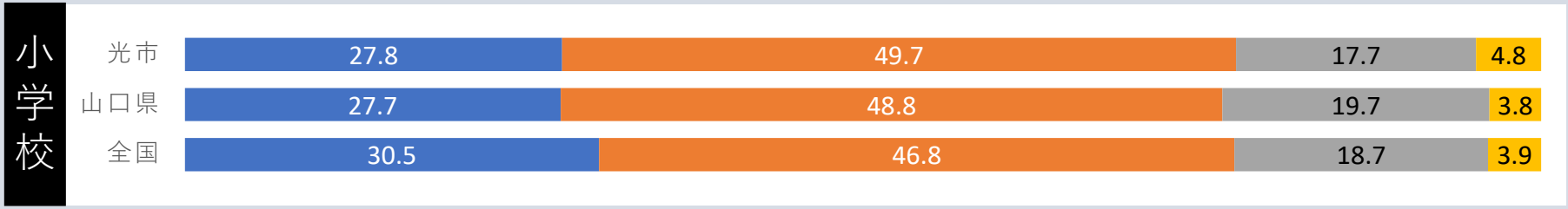
学校・地域連携カリキュラム等に位置づけられた地域への関心を高める学習や、地域の方々と協働して活動する学びなどを通して、地域の資源を活用した指導の充実を図り、児童生徒の自己肯定感を高めたり、学習意欲等につなげたりすることができるようにする。また、児童生徒自ら主役となって、地域に働きかける学びの場を開発・実践し、主体的・対話的で深い学びの中で、自己有用感を高めることができるよう、工夫して取り組むことが求められる。

# 児童生徒質問紙の結果

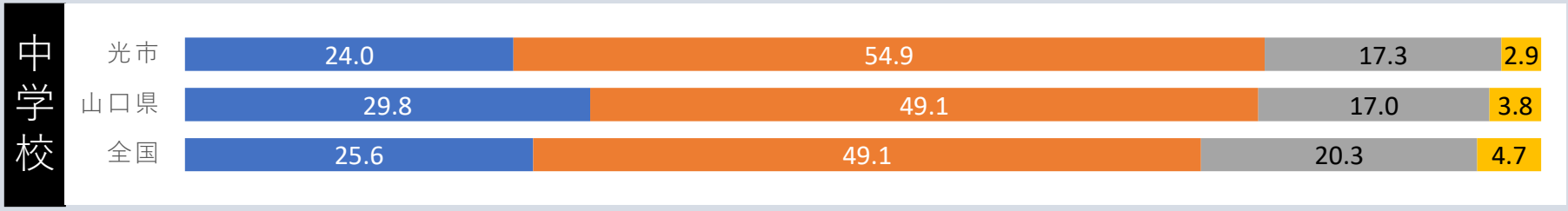
## ③授業改善に関する質問

■当てはまる　■どちらかというと当てはまる　■どちらかといえば当てはまらない　■当てはまらない

### 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか



### 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか

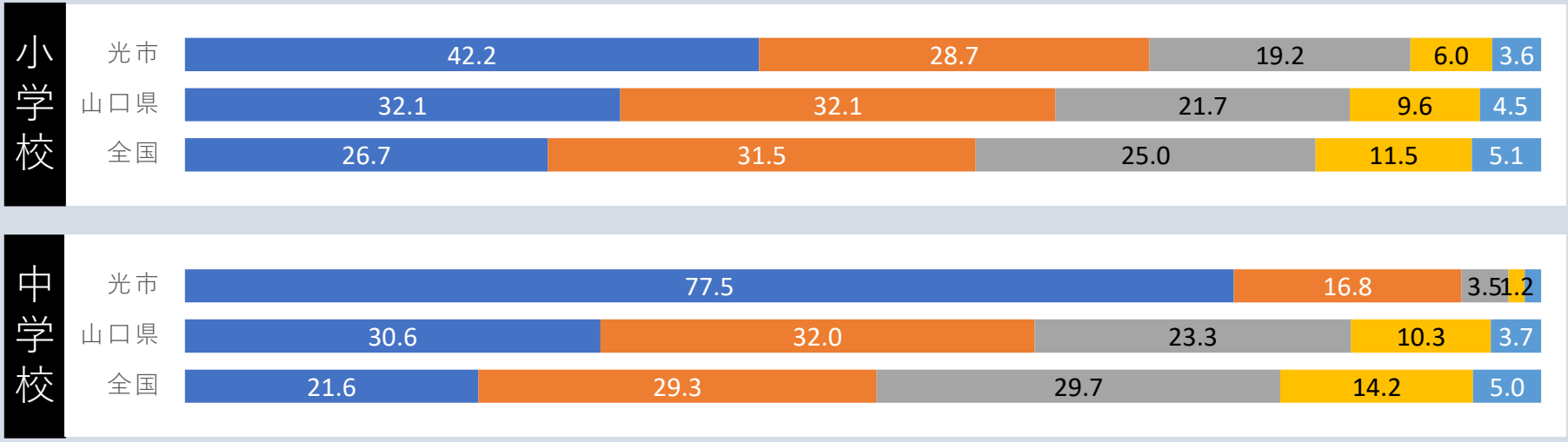


# 児童生徒質問紙の結果

## ③授業改善に関する質問

■ほぼ毎日 ■週３回以上 ■週１回以上 ■月1回以上 ■月1回未満

**コンピュータなどのＩＣＴ機器をどの程度使用しましたか**




「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか」という質問に、肯定的に回答した割合が小学校で全国平均と同等程度であった。また、「学習した内容について、分かった点、分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができているか」という質問に肯定的に回答している児童生徒の割合は、全国や県の平均を上回った。

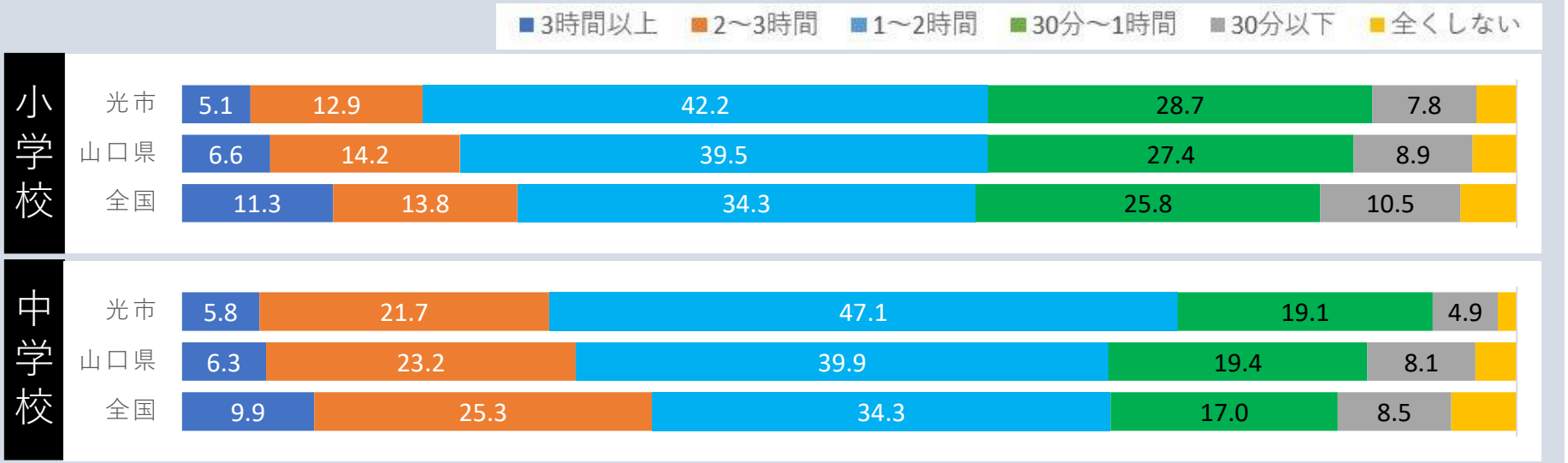
ICTの活用については、昨年度同様に、学習者用タブレット端末を積極的に授業で活用したことから、使用頻度が全国平均を上回っている。特に今年度、中学校では、短時間学習や電子図書の閲覧、学校行事など、授業以外の場面においても日常的に活用されていることから、普段使いとしてICTの活用が定着している。

引き続き、「光スタンダード」を周知し、児童生徒自らが課題をもち、見通しをもって学習に臨めるような提示の工夫、話し合いにより自分の考え広げたり深めたりする場の工夫、学習の振り返りの工夫等を行いつつ、ICTを効果的に活用しながら、主体的・対話的で深い学びが充実するよう、授業改善に努める。

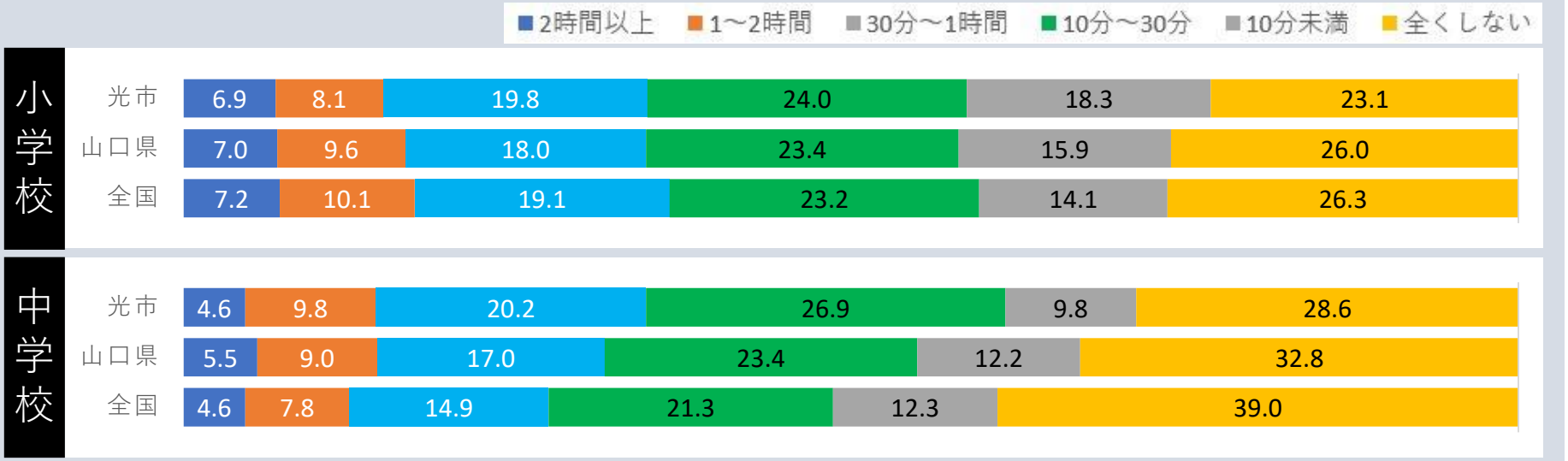
# 児童生徒質問紙の結果

## ④家庭での学習習慣に関する質問

### 平日一日当たりどれぐらいの時間勉強をしますか（学習塾・家庭教師・インターネットを活用した勉強時間を含む）



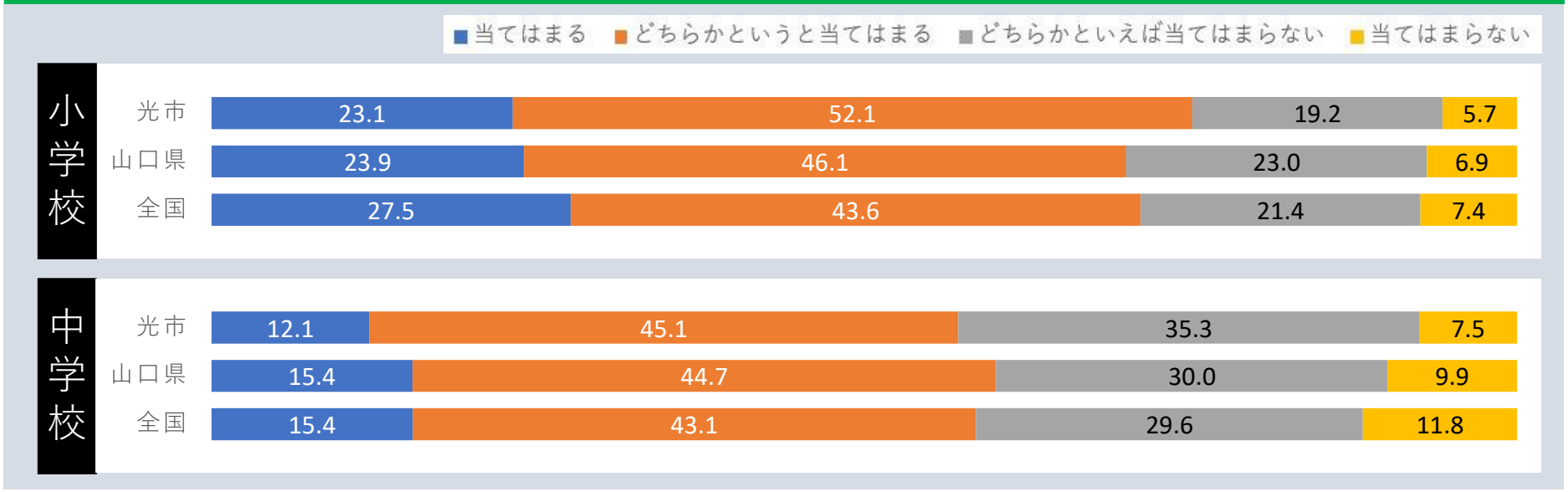

### 学校の授業時間以外に、普段一日当たりどれぐらいの時間読書をしますか



# 児童生徒質問紙の結果

## ④家庭での学習習慣に関する質問

**家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）**




平日に１時間以上学習している児童生徒の割合が最も多く、トータルの時間数において全国や県の平均を上回った。2時間以上学習する児童生徒は、全国と比べて少ない傾向にある。

「自分で計画を立てて勉強をしている」という質問に肯定的に回答した児童の割合は、小学校は全国平均を上回ったが、中学校では下回っている。自ら学びを調整していくためにも、タイムマネジメントも含めて、計画的に家庭学習を行い、自己の目標を達成していく力は今後重要となること、また自分で計画を立てて勉強している児童生徒は正答率が高い傾向が見られることから、今後も引き続き、家庭との連携を密にし、家庭学習の習慣の定着と内容の工夫に努めていく。

また、読書量については、全国平均を上回っている。不読率も全国と比べて少ない。全校読書の実施や読み聞かせの機会の確保、中学校においては市立図書館と連動し電子図書館のサービスを利用した貸し出し等が影響していると考えられることから、引き続き、読書指導の充実に向けた取組を継続していく必要がある。

# 実施後の対応

## 1 学校の対応

**（1） 学力向上への組織的・日常的な取組の推進（継続的取組みと改善）**

「光スタンダードの活用」、年２回の検証サイクルによる具体的かつ組織的な取組みの実施

**（2） 地域・保護者への情報提供**

学校運営協議会における説明、学校だより等による報告、保護会懇談会等における報告

**（3） 児童生徒・保護者への個別対応**

個票の返却と助言

## 2 市教委としての対応

**（1） 結果分析・報告**

９月に市のHP に掲載予定

**（2） 学力向上担当者会議を実施（令和3年7月7日）**

光市全体の課題解決に向けた今後の取組みの協議・共有

各校学力向上アクションプランの見直し・再構成

**（3） 各学校の課題に応じた訪問支援**

学力向上ヒアリング（２回目）　成果と課題の分析

校内研修等での授業改善支援

**（4） 学力向上推進リーダーとの連携**

学力向上ベース会議による情報交換

授業改善研修会の実施